



北海道の 医療政策に関して

札幌市医師会 理事
宮崎整形外科医院 院長
宮崎 誠 一

北海道医師会情報広報部長からの原稿依頼で、北海道の医療政策について感じていること、特に、札幌市医師会で道央地区から選出されて医療政策等検討委員会委員をしている立場から、北海道の医療政策について考えたいと思います。

医療崩壊が盛んにマスコミを賑わすようになって4年ほど経ったかと思えます。その間、医療福祉政策だけが原因とは思いませんが、その一因になったかと思われる自民党政権の凋落と、民主党の政権奪取が2009年起こりました。北海道における医療崩壊は、マスコミが報じている根室市立病院の産科医不在の問題、江別市立病院の内科医総引き揚げ、北見日赤病院の医師立ち去りによる内科膠原病外来の消滅、それ以外の地方基幹病院も医師不足に悩まされ、残った医師に負担がかかり、立ち去り型サボタージュの悪循環に陥っている状態が、今も続いています。

札幌市においても、産婦人科の夜間救急の問題が起こりました。現在は、看護師、助産師による電話相談による振り分けは、うまく機能しているようです。しかし、各道内医師会は、今も、医師不足の問題、救急医療の問題を抱えています。

北海道医師会は、日本医師会から各郡市医師会に、日本医師会からの伝達事項を媒介するだけでなく、北海道庁と協力し緊急臨時的医師派遣事業を運営、ある程度の成果をあげられていますし、北海道医療対策協議会で、さまざまな北海道における医療問題を道と協議しているようです。ただ、道との折衝結果についての内容報告は、郡市医師会に下りてはきていません。迅速に医師会員に知らせべき情報は伝達すべきですが、この点、日本医師会からの伝達事項、例えば、日医ニュースなどは、道医でもネット経由で重複して配信していますが、道との協議結果は道医報を見ても掲載されてなく、改善されるべき点ではないかと思っています。

今、個人的には、札幌の都心で無床の開業医をしています。それで、札幌市、道央圏から見た北海道の医療政策の現状をみてみたいと思います。

旭川地区と同様、医師不足は表立って話題になるほどではないようです。特に札幌は、地方の基幹病院で疲弊した医師が、金じゃなく、安息を求めて開業する場になっているようです。この地方の医師不足の問題は、国の失政の結果です。具体的には、新

医師臨床研修制度、毎年、国庫負担分医療費の伸びを2,200億円削減するといった小泉・竹中路線の市場原理主義が原因であり、北海道だけで、ましてや道医師会がどうにかできる問題ではなさそうです。ただ、疲れ果てた人が、勤務医ではなく上からの圧力がない開業医を選択されているため、いずれ、歯科医のように、札幌圏での開業医の過剰による過当競争、ひいては、それに続く乱診乱療が起こるのではないかという懸念があります。

昔のように、開業を制限するための医師会入会拒否は認められませんので、現状では傍観するしかないようです。ただ、現在、医師の地域による偏在、科別の偏在が、新医師臨床研修制度で顕在化し、加速されている状況に対して、縛りを設けることを現政権は考えているようです。これに関しては、国費が医学部教育に多くつぎ込まれていることから、賛成できる面もあります。しかし、医師の独立性に制限が加えられないよう注視する必要があります。北海道医師会にも、このことに関しては動向を注視し、日医に対しても注意を喚起していただきたいと思えます。

道央圏の医療問題は、江別市立病院の問題がありました。今は、それぞれ、救急医療の問題を中心に課題を抱えているようです。道医師会は、地方の医師不足問題の解消に向けて道庁との折衝を通じて尽力されています。道央圏では、勤務医不足問題がそれほど顕在化してなく、道医師会の眼は、それほどこちらを向いてないように思います。それだけに、少し醒めた目で、道医師会を見ることが出来ます。

現在、道医師会は、財政上の問題を抱えているようです。道医師会費の値上げ問題も水面下で浮上しているようです。無駄を省き、なおかつ資金不足になるなら道医師会員の理解が得られると思えますが、現状は分析が必要です。道医師会の代議員会での決算報告等で、ある程度問題点が出てきます。まず、人件費率が50%を超えているという点です。社団法人、医療法人などは、一般的に人件費率が50%を超えることは好ましい状態ではないとよく聞きます。どの程度が都道府県医師会の適正人件費比率か、資料を持ち合わせず明確には言えません。ただ、広大な面積がある北海道で、端から端まで駆け回らないといけない道医師会は、旅費に費用がかかるのはやむを得ないとして、会費値上げの前にやるべきことはあるように思います。

個人的な思いを書いてみました。そのため、もちあわせた資料はありません。数字等で誤り等あると思いますが、ご寛容、ご容赦願えれば幸いです。最後に、道庁が進めているドクターヘリ、ドクタージェットですが、ランニングコスト等の財源問題をはじめ、悪天候をどうするか解決できれば素晴らしいものになると思えます。